

【所 感】

○京都市における『学校体操服リサイクルの取組について』

説明者：京都市教育委員会事務局 総務部総務課 榎木章人 課長
京都市教育委員会事務局 総務部総務課 福知賢治 係長
写真家・環境プロデューサー 岡部達平 氏

小中学校で使用しなくなった体操服を繊維に戻し、再び新しい体操服に戻す運動。体操服『いってらしゃい、おかえりなさいプロジェクト』

このプロジェクトは、環境プロデューサー岡部達平氏の提案によるもので、半永久的にリサイクルできる体操服を通し、子どもたちの環境意識の向上を図る、極めて優れた事業である。

回収した体操服を松山のリサイクル工場に運搬して、新しい繊維に再生させる。回収コストを行政が支出している。プロジェクト参加校（京都市内）が現在 60 校であり、今後の回収率が上昇することが期待される。

H26 年度 49 着 約 7 k g 回収費用 50 円 / k g 運搬費 8 万円 /
トラック 1 台

全国的に普及しうるプロジェクトであり、米子市においても十分に参加可能なプロジェクトである。

○池田市『池田ブランド構築事業について』

説明者：池田市 議会事務局 榊野祐子 次長
池田市 市民生活部 東 勇輔 課長

H18 年、池田市ほんまち通りに「落語みゅーじあむ」が建設されるにあたり、改正中心市街地活性化法により TMO（タウン・マネージメント組織）いけだ 3 C を設立。商工労働課とともに『落語』をテーマとした『地域ブランド』の構築『おたなかいわい』を構想する。

いけだ 3 C を中心に地元商業者への勉強会を開催。商店街の各店舗の商品と落語のコラボを企画。そのほか、各種イベントを企画し。集客を図る。とくに、近隣大学（阪大・関大・関学）の落語研究会の協力を得て、商店街で落語会を行うなど、商店街の活性化に成功している。

商店街を視察すると、「落語社会人日本一決定戦」の昇り旗がたくさん上がり、商店街の活気がうかがえた。

また、池田市は「インスタントラーメン発祥の地」であり、インスタントラーメン発明記念館（日清食品）がある。ここへは、年間 70 万人が訪れる。現在、市は「チキンラーメン創作料理のお店食べ歩きマップ」を作成し、新たな魅力発信を試みている。さすが、商人の町大阪である。

米子市においても、魅力ある商店街の構築するため、素材の見直しを検討すべきである。

○吹田市 『千里山駅周辺整備事業について』

説明者： 吹田市 都市整備部 伏見文男 参事

吹田市 都市整備部 東 勇輔 課長

千里山駅周辺地域は、昭和32年に建設された千里山団地を中心に老朽化が目立ち、交通渋滞や歩道の整備、駅の駐輪場が必要となっていた。そこで、UR都市機構による関連公共施設の直接施行制度を活用し、事業の着工を行った。

直接施行制度とは、面的整備に伴って、短期集中的に生じる人的・財政的な負担を緩和する方策として、都市再生機構が公共団体に代わって、面的整備に必要な関連公共施設の整備を行う制度のことである。

なお、この事業開始にあたっては、地域住民との「まちづくり懇談会」を行い（33回開催）、住民の意見を十分に反映させて行っている。

千里山駅は、阪急電鉄の駅であるが、比較的小さな駅にも関わらず、立地条件もよく、住民にとっては便利な駅である。駅前空間は建設中であるが、都市化され、住むにも働くにも便利な街になっている。

米子市においても、南北自由通路建設にあっては、十分に住民の意見をくみ上げ、より便利な駅機能や商業の活性化になるよう配慮しなくてはならないことを学んだ。